



なぞって練習

早朝の帰りが少しおくられて、日のさしそめたころに出かける源氏の婆には、世間から大騒ぎさされるだけの美は十分に備わっていた。今朝も五条の蔀風の門の前を通った。以前からの通り路ではあるが、あのちよつとしたことに興味を持ってからは、行き来のたびにその家が源氏の目についてた。幾日かして惟光が出て来た。

■ 参考

※蔀風【つやみぶい】

※路【みち】

(青空文庫のフリガナより)